Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2020, Vol.29, 182-189

報告

薩摩琵琶ワークショップの実践結果と課題

惠谷林太郎［鹿児島大学大学院教育学研究科］
寺 床 勝 也［鹿児島大学教育学系（技術科教育）］

Practical results and issues of the Satsuma Biwa Workshop

EYA Rintaro and TERATOKO Katsuya

キーワード：薩摩琵琶、 伝統技術、 伝統文化、体験型ワークショップ

1 背景および目的

薩摩琵琶は，鎌倉時代の盲僧琵琶を改良して誕生した[1)]。主に，郷中教育において武士の教養を身に付けるために使われた楽器である一方，次第に「町風」[2)]と呼ばれる演奏方法が考案され民衆に広まり，明治頃には盛んに演奏されていた。このように，薩摩琵琶は鹿児島の文化を支えてきたものであるが，鹿児島県内においては 2010 年に製作が途絶え[3)]，東京虎ノ門に石田琵琶店が 1 件だけ残った。この状況を憂いた薩摩琵琶演奏家らとともに，筆者は 2016 年から鹿児島において薩摩琵琶の製作技術を復元している。さらに並行して教育における可能性も探ってきた。

薩摩琵琶の製作技術を復元する過程で，伝統的な曲木の技術があること，材料が入手困難であることなどの課題が明らかになった[4)]。また，2016 年時点では，薩摩琵琶の演奏を体験できる機会はほとんど存在しなかった。本研究では，このような薩摩琵琶の現状を鹿児島市民に伝えるべく，鹿児島市主催のイベントにおいて製作技術の復元記録を展示し，実際に薩摩琵琶を触れる体験型ワークショップを企画した。本報告では，ワークショップの来場者を対象に，薩摩琵琶体験コーナーの感想と薩摩琵琶についての考え，学校教育における可能性を問い，イベントの成果や今後の課題を明らかにした。

2 2017 年に実施したイベントの概要および結果

2.1 イベントの概要「秋かごしまの夜会（2017 年 11 月 11 日実施）」

鹿児島市の「第 2 期文化薫る地域のまちづくり実行委員会，第 3 部会」が中心となりイベントの企画と運営を行った。この部会は，日本の伝統的な音楽や舞踊の専門家がメンバーの中心である。「秋かごしま夜会」は，2017 年 11 月 11 日（土）に鹿児島市中央公民館にて実施された。14:00～17:00 までは，浴衣の着付けと礼法，お手玉づくりとお手玉あそび，薩摩琵琶体験コーナーの 3 つのワークショップが行われた。17:30～20:00 までは，屋内でわらべうた・唱歌，伝統芸能の神舞・雅楽の陪臚（ばいろ），知唄舞（ちうたまい）の金ケ岬（かねがみね）が行われ，後半は屋外でかがり火とともに虚無僧踊り（こむそおどり）と鉦踊り（かねおどり）が行われた。イベントの目的は，「市民に日本，そして地域の伝統文化などを身近に感じてもらいその魅力を味わう」[5)]であった。

2.2 薩摩琵琶体験コーナーの概要

薩摩琵琶体験コーナーは、「薩摩琵琶同好会」および「薩摩琵琶製作研究の会」の協力を得て行われた。図 1 に，薩摩琵琶体験コーナーの配置および動線を示す。出入口付近に薩摩琵琶の歴史や製作工程が分かるパネル（付図 1，付図 2 を参照）を展示し，来場者に説明したのち，質問があれば回答した。部屋の中央には，製作した薩摩琵琶と，加工途中の胴の実物を展示し，触れられるようにした。部屋の後方には，薩摩琵琶の歌詞を壁面に張り，薩摩琵琶の演奏体験ができるようにした。最後に，来場者には、アンケート（付図 4, 5）を実施し、薩摩琵琶に関する意識調査を行った。

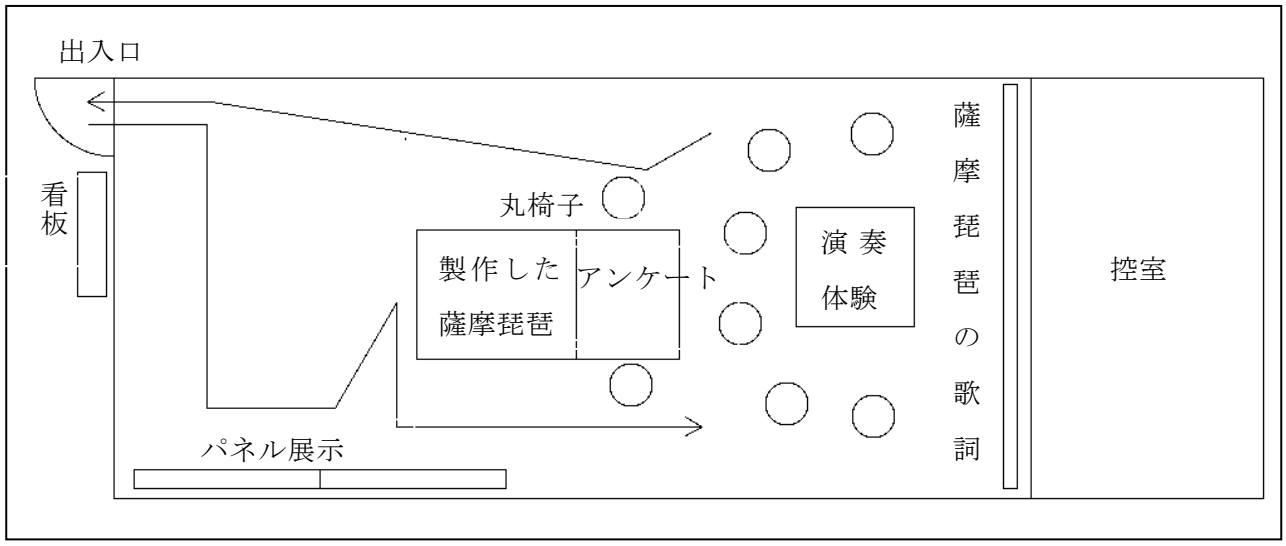

図 1　薩摩琵琶体験コーナー配置および動線

2.3 薩摩琵琶体験コーナーの結果および考察

体験コーナーの来場者数は 40 名前後で、アンケートの回答は 18 名であった。自由記述のアンケートの結果から，「製作の現状を見て感じたこと」についての自由記述の回答は，「胴が意外に厚い」(70 代男性)，「接着剤が気になる」(30 代男性)，「材質がクワだとはじめて知った」(60 代女性)などの材料についての感想がみられた。続いて，「ぜひ技術を復活させてもらいたい」(50 代女性)，「製作者の努力，根気，愛情，思い入れがなければ不可能」(70 代女性)，「県内にもっと製作者が増えてほしい」(30 代女性)などの後継者問題についての感想がみられた。腹板の伝統的な曲木などの習得に時間がかかることを知り後継者問題に関心を示したと考えられる。

演奏体験を終えたあとの自由記述のアンケート結果から，「たたきつける演奏方法なので壊したり傷つけたりしそう」(50 代男性，30 代女性)など弾奏方法についての感想や，「いろいろな音がでる」(40 代男性)，「音階の正解が分からない」(40 代女性)など薩摩琵琶の独特な音に対する感想があった。さらに，実際に体験できて良かったという感想も多かった。体験の最中に，「ずっと演奏してみたいと思っていて，やっとこの機会に巡りあえた」という声も多く聞くことができ，女性からの高いニーズが認められた。

薩摩琵琶についてどのように考えているかについても調査した結果，秋かごしま夜会のように薩摩琵琶を体験できるイベントがあれば，また参加したいと 18 名中 15 名が回答した。また，演奏会

については，17 名が行ってみたいと回答した。薩摩琵琶の歴史や演奏方法を体験したことで，より伝統文化に興味を持ったと考えられる。薩摩琵琶の演奏方法や曲については，13 名が伝統的なものを守りつつ，新しい方法も必要であると回答した。この結果から，薩摩琵琶の歴史的価値を保ちつつ発展することを望んでいることが分かる。薩摩琵琶を習うことと入門用の薩摩琵琶の是非については，習いたくて入門用の琵琶があってもよいと 8 名が回答した。また，習いたいかと聞かれるとどちらでもないが入門用があってよいと 5 名が回答し，習いたいと思わないが入門用の琵琶はあってよいと 3 名が回答していた。この結果から，習いたいかは個人の気持ちによるが，入門用の入手しやすい琵琶が求められていることが明らかになった。

薩摩琵琶の製作や，材料について質問した結果，鹿児島で薩摩琵琶の製作者が増加してほしい（14 名），資源が確保され持続的に作られるようになってほしい（15 名），薩摩琵琶の製作に鹿児島県産の木材が使われるようになってほしい（15 名），薩摩琵琶を個人でも作れるようになりたい（6 名）となった。この結果より，鹿児島で資源や後継者が絶えないようにして，薩摩琵琶を守ってほしいと考えていることが分かる。しかし，薩摩琵琶の製作に関わってみたいと人は少数であった。

学校教育における薩摩琵琶の教材の可能性について調査した結果，「どの教科で扱ってほしいか」の質問に対して，「社会科 16 名，音楽科 15 名，総合的な学習の時間 15 名，工業高校の実習 14 名，技術科 13 名，美術科 12 名，理科 11 名」の結果となった。パネルで歴史を詳しく説明したことや，演奏体験があったことにより，社会科や音楽科で薩摩琵琶を扱うイメージにつながったと考えられる。総合的な学習の時間では，歴史や音楽の要素を含む地域の文化について調べ学習をするイメージをしていたともいえる。薩摩琵琶の製作過程をパネルで紹介したことにより，ものづくりや伝統技術の題材として工業高校の実習や技術科で扱ってほしいと考える人が多くなった。工業高校の実習の方が 1 名多いが，技術科で扱うには高度な内容であると想像したといえる。技術科で薩摩琵琶を扱うときには，伝統技術の問題点に焦点を絞るなどの工夫が必要である。美術的な内容や，理科の内容については，薩摩琵琶体験コーナーで積極的に質問されなかったため，やはり，歴史や音楽，ものづくりのイメージが強いと考えられる。

アンケート以外の来場者からのヒアリングでは，パネル展示においては，「どのような材料や工具を使うのか」という質問や，「どの工程が一番難しいか」という質問が多くあり，加工途中の胴を見せながら詳しい説明を行ったことがこのような感想につながったと考えられる。

一方，この「秋かごしま夜会」の薩摩琵琶体験コーナーでは，伝統文化を担っていく子どもの参加者が少なかったことに加え，薩摩琵琶だけでは体験コーナーに入りにくいことが課題となった。

3　2018 年に実施したイベントの概要および結果

3.1 イベントの概要「ふるさとこどもまつり～遊ぼう『和』のせかい～（2018 年 12 月 23 日実施）」

前年度の「秋かごしま夜会」と同じく，鹿児島市「第 2 期文化薫る地域のまちづくり実行委員会，第 3 部会」が中心となりイベントが企画され，2018 年 12 月 23 日（日）に鹿児島市中央公民館で行われた。12:30～14:00 までは，薩摩琵琶体験コーナー・天吹体験コーナーと垂水人形の絵つけ体験の 2 つのワークショップが行われた。14:00～16:30 は，ステージにて狂言ワークショップの吉野兵

六どんと大平（たいへい）の獅子舞，日本の四季の歌の体験があった。イベント全体の目的は，「鹿児島の民謡をもとにした狂言，民族芸能，邦楽，舞踊のほか，日本で歌い継がれている懐かしの唱歌や鹿児島の伝統文化にスポットをあて，市民の皆様に身近に伝統文化を触れ体験していただくことで，その魅力やすばらしさを感じていただく」[6]とした。さらに子どもでも参加しやすいように，「夜会」から「こどもまつり」に名称を変更し，時間を昼から夕方までとした。

3.2 薩摩琵琶・天吹体験コーナーの概要

「薩摩琵琶同好会」，「薩摩琵琶製作研究の会」，「天吹同好会」の協力を得て行われた。図 2 に薩摩琵琶・天吹体験コーナーの配置および動線を示す。出入口付近は，薩摩琵琶体験コーナーとし，部屋の半分は，天吹体験コーナーとした。パネル（付図 1, 2）やポスター[4]は壁面に展示し，2 つのコーナーを見渡せるように工夫した。天吹(てんぷく)とは，薩摩琵琶や示現流とともに武士の修練に使われた竹笛である。

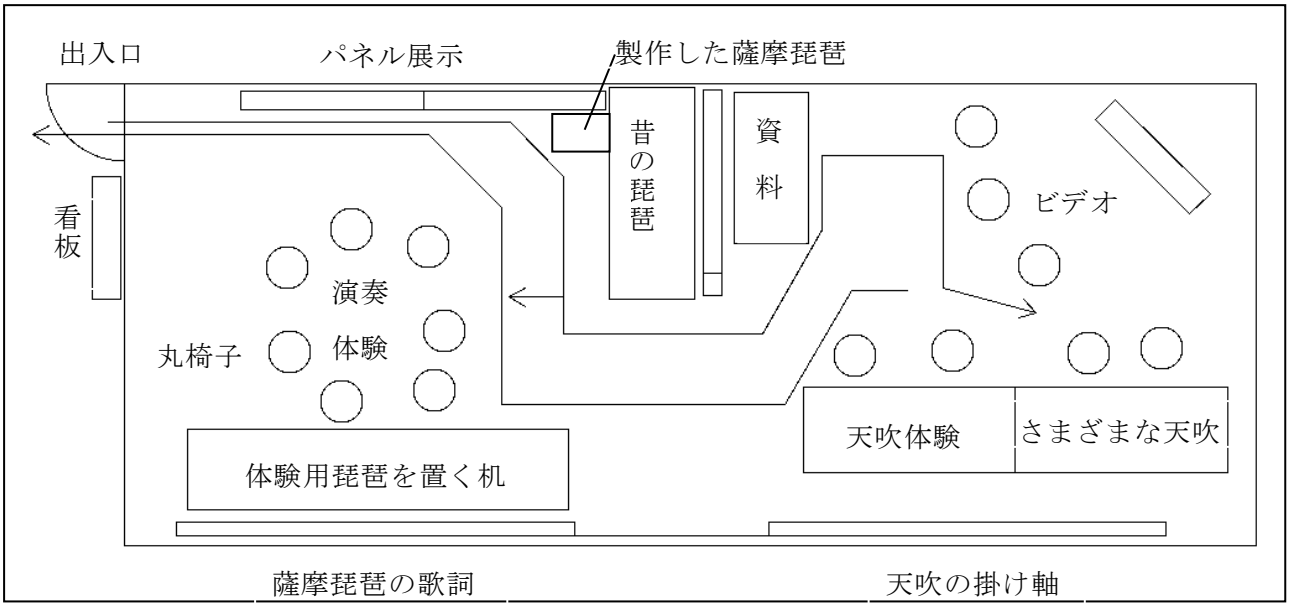

図 2　薩摩琵琶・天吹体験コーナー配置および動線

3.3 薩摩琵琶・天吹体験コーナーの結果および考察

来場者数は，100 名未満であったが，他の伝統文化のステージに出演する児童や生徒が多く参加し，加えて日本の文化に興味を持った留学生も認められた。薩摩琵琶を体験した児童や生徒の多くが，「重い」，「弾き方が難しい」と言いながらも熱心に練習する姿が見られた。天吹は，音を出すことに苦戦している様子が見られた。音が出たときには大変喜び，子どもには天吹のプレゼントがあり，楽しんでいた。課題としては，パネルの説明が子どもにとって難しかったこと，前年度の薩摩琵琶体験コーナーで順番待ちの時間があった反省から，2 つ体験できるようにしたが，前年以上に待ち時間が長くなったことが挙げられる。また，演奏家と子どもの間に年齢や意識のギャップがあるように見えたため，この間に伝統技術や文化に携わる学生のスタッフが入る必要があると考えた。

4 総括および今後の課題

本報告では，2017 年度および 2018 年度に実施した鹿児島市主催のワークショップにおける薩摩琵琶の体験型実践と課題について取りまとめた。実践した結果、以下の課題を明らかにした。

ひとつは，薩摩琵琶の製作工程をパネルで展示し，演奏体験を行ったことで，一般向けに薩摩琵琶の現状や演奏に興味を持たせる機会となった。山内ら(2013)は，「ノンフォーマル学習であるワークショップでは，参加者を公募することが多い。結果として関心は近いが，年齢や属性の異なった人々が学習集団になる」[7]とし，授業とワークショップには違いがあることを述べている。薩摩琵琶体験コーナーに当てはめて考えると子どもにはパネルの説明が伝わっていないことが課題となった。今後も薩摩琵琶の体験コーナーを継続していく予定であるため，ワークショップの対象者や，時間配分を細やかに考えるべきであるといえた。

次に，薩摩琵琶の演奏家は高齢化が進んでいるため，歴史や伝統的な演奏を知る人物の減少が懸念される。今後も，このようなイベントを続けるために，2019 年から「鹿児島大学薩摩琵琶同好会」を立ち上げた。このことにより，大学生が子供たちに伝統技術や文化を紹介する仕組みづくりのきっかけとなることが期待されている。

最後に，薩摩琵琶の教育的な活用については以下のような課題が明らかになった。

歴史，音楽，ものづくりの教育的な活用の可能性があることが明らかになった。また，2018 年より中学校学習指導要領が改訂され，技術分野の内容の取扱いにおいて伝統的な技術を扱うように示された[8]。今後はさらに各分野において，教育的な価値を整理し，授業実践を重ね，生徒に伝統技術や文化が伝わるように指導方法を検討することが求められるといえる。

引用・参考文献

1)江田俊了：常楽院沿革史，常楽院事務所，pp.58-60，(1932)

2)若林忠宏：日本の伝統楽器知られざるルーツとその魅力，シリーズ・日本再発見 11，ミネルヴァ書房，p132，(2019)

3)藤田ら：鹿児島県木材関連事業・学・官のコミュニケーション誌，No.22，かごしまウッディテックフォーラム事務局，pp.2-5，(2002)

4)惠谷ら：日本木材学会京都大会発表要旨，(2018)

5)鹿児島市文化振興課 Web ページ，「秋かごしま夜会」イベントレポート https://www.kcic.jp/traditional-arts/23360，(2019/8/28 閲覧)

6)鹿児島市文化振興課 Web ページ，「ふるさとこどもまつり～あそぼう『和』のせかい～」イベントレポート，https://www.kcic.jp/committee/29417，(2019/8/28 閲覧)

7)山内ら：ワークショップデザイン論-創ることで学ぶ-，慶応義塾大学出版会，p17，(2013)

8)文部科学省：中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説技術・家庭編，p27, (2018)

付　録

付図 1　薩摩琵琶パネル①

付図 2　薩摩琵琶パネル②

薩摩琵琶に関するアンケート

このアンケートは、薩摩琵琶体験コーナーの感想と薩摩琵琶に対する考えの調査を行うものです。アンケートの結果は、大学の研究（発表会,論文作成）以外の用途には使用しません。

性別（　　）

年齢（10 代以下　10 代　20 代　30 代　40 代　50 代　60 代　70 代　80 代　80 代以上）

お住まいの地域・出身地（　鹿児島県内　鹿児島市内　その他（　　）　）

薩摩琵琶体験コーナーに来た理由（複数回答可）

チラシ・ポスター，友人・知人に誘われたから，家族に誘われたから， たまたま通った，他のコーナーに参加したついで，薩摩琵琶に興味があった， その他（　　）

１薩摩琵琶製作の現状を見て感じたことを教えてください。印象に残ったところなど。

２薩摩琵琶を体験してみて感じたことを教えてください。

付図 3　薩摩琵琶移管するアンケート表面

3薩摩琵琶に対するあなたの考えを教えてください。	まったく		どちらでもない		とても
①このような薩摩琵琶を知り、体験できるイベントがあれば また参加したいですか？	1	2	3	4	5
②薩摩琵琶の演奏会があれば行きたいですか？	1	2	3	4	5
③薩摩琵琶の古い楽曲・奏法を伝えていくことは必要だと思いますか？	1	2	3	4	5
④薩摩琵琶の新しい楽曲・奏法が必要だと思いますか？	1	2	3	4	5
⑤薩摩琵琶を他の楽器のように習い事として学びたいですか？	1	2	3	4	5
⑥入門用の薩摩琵琶があっても良いと思いますか？	1	2	3	4	5
⑦鹿児島で薩摩琵琶の製作者が増加してほしいですか？	1	2	3	4	5
⑧製作資源が確保され持続的に薩摩琵琶製作が行われるようになってほしいですか？	1	2	3	4	5
⑨薩摩琵琶の製作に鹿児島県産の木材が使われるようになってほしいですか？	1	2	3	4	5
⑩薩摩琵琶を個人でも作れるようになりたいですか？	1	2	3	4	5

4学校教育に関する質問です。					
⑪社会の授業で薩摩琵琶の歴史を学びたいですか？(学んでほしいですか？)	1	2	3	4	5
⑫理科の授業で薩摩琵琶が鳴る原理を学びたいですか？(学んでほしいですか？)	1	2	3	4	5
⑬音楽の授業で鹿児島の伝統的な楽器として薩摩琵琶を学びたいですか？ (学んでほしいですか？)	1	2	3	4	5
⑭美術の授業で工芸品として薩摩琵琶を学びたいですか？(学んでほしいですか？)	1	2	3	4	5
⑮小学校、中学校、高校には、総合的な学習の時間があります。 薩摩琵琶について調べ学習をしてみたいですか？(調べて学んでほしいですか？)	1	2	3	4	5
⑯技術の授業で薩摩琵琶に使われている加工技術を学びたいですか？ (学んでほしいですか？)	1	2	3	4	5
⑰工業高校の実習等で生徒の技能向上のために薩摩琵琶製作を行ってほしいですか？	1	2	3	4	5

その他ご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

付図４　薩摩琵琶に関するアンケート裏面